

熊野古道コーナー「古道のある町」
紀北町紀伊長島区・古道魚まち歩観会

古道魚まち歩観会会員 植村 岐穂子

「古道魚まち歩観会」ってどんな会？

紀伊長島は、世界遺産に登録された熊野古道の歴史・文化的な雰囲気あるツツラト峠、荷坂峠、三浦峠、始神峠の4つの峠の中心に位置し、昔ながらの漁師まちの風情を漂わせながら、「三重きいながしま港市」や「船だんじり」、「燈籠祭」などのイベント・祭り、多くの観光資源にも恵まれ、「見る」「食べる」といった魅力に富んでいるところです。



歩観会では、これら熊野古道と漁師まちを結び、歴史ある熊野古道のロマンを味わうだけでなく、今も変わらぬ懐かしい漁師まちの暮らし、文化、歴史といった温もりにふれ、訪れた人がやすらぎを感じられる交流空間づくりに取り組んでいます。

会員は、紀北町商工会・熊野古道語り部・紀伊長島ふるさと懇話会・ツツラト峠を守る会・ギョルメ舎フーズ(株)・水産加工業協同組合・紀北国際交流協会・三重県建設業協会の各代表、自治会、まちづくりに興味のある一般住民で組織。アドバイザーに小倉肇氏と、北村博司氏と実に多彩です。

「古道魚まち歩観会」の名前は、県内有数の漁港である長島港を持つ西長島全体を「魚まち」と称し、「魚の町」をイメージさせ、「あるかんかいー（歩きましょう）」と誘いかける紀伊長島の方言に「歩く」と「観る」の字を当てたものです。普段は目的別の小部会（随時）に分かれ活動していますが、月1回全体会でそれぞれの活動報告や重要事項の承認などを行います。

これまでの活動報告



まず自分たちで魚まちを歩き、まちの魅力や宝ものを再発見する勉強会を開きました。その後、西長島地区のまち歩きマップ『魚まちマップ』を作成。マップ作りの資料は、懇話会やアドバイザーの方々から惜しみなく提供され、写真撮影なども会の仲間が協力してくれたおかげで完成にこぎつけました。初めて訪れた人でも現在地がわかるように、マップの記載番号を入れた陶板製の町名表示板を魚まち地区の62カ所に設置。陶板は、

町のシンボルのマンボウをかたどったもので、魚まちの景観を損なわないデザインになるようこだわって作製。町の陶芸教室の先生と会員の手作りで、設置には、自治会の方や地元の大工さんが協力してくれました。今では、まちの雰囲気に溶け込み、訪問者にはもちろんのこと、住民にも大好評です。

また、魚まちに導くための石の道標をツツラト峠、荷坂峠にそれぞれ4カ所、計8カ所に設置しました。6月には、魚まちウォークラリー大会を開催。29チーム約100人の子どもたちが、魚まちマップと陶板をたよりに、迷路のように入り組んだ細い路地を町の人と交流をしながら歩きました。チェック



ポイントでは、クイズに答え、「おじゃみ」・「しょうきりん」など昔の遊びを体験して得点を競い合い、子供のみならず、同行した大人まで大いに盛り上がりました。歩観会もスタッフとして参加、手作りキーホルダー200個を作成し、参加者やスタッフ全員に配りました。

また、11月は、先進地視察で近江八幡市を訪れ、長い間、まちづくりに取り組んできたNPO法人「一粒の会」の方にお話を聞き、まちを案内していただきました。道中のバスの中では、久保幸夫さんに語り部の勉強会をしていただき大変有意義な研修旅行となりました。

現在の活動



現在、歩観会では、「IT部会」・「縁台設置部会」・「陶板石板部会」・「語り部育成部会」・「小公園プロジェクト部会」の5つの小部会に分かれて活動しています。私は、この内3つの小部会と関わっています。IT部会では、魚まちのことをもっと知ってもらうため、「魚まち通信」を3カ月ごとに発行し紀伊長島区の約4000世帯に配布。2月には第4号が発行される予定です。メンバーと遊び心をふんだんに

に散りばめて、住民の方に親しまれる紙面作りを心がけています。また、歩観会の活動や魚まちの情報発信のため歩観会のホームページを9月に完成しました。このサイトでマップを閲覧したり、「魚まち通信」をダウンロードすることもできますよ。縁台設置部会では、地元の中학생や大工さんに協力してもらい、古道客や町の人が町歩きに疲れたとき、休んでもらうためのベンチ作りをしています。材料は熊野古道センターの廃材（尾鷲ひのき！）を再利用。陶板石板部会は、これまでのマンボウ陶板などの案内標識をさらに充実させるよう準備が進められています。

年末に長島港で開催された港市では、干物を試食していただけるよう炭火を用意したり、昔懐かしい「巻きアメ」をサービスするなど、県内外の買い物客との交流をはかり、商店との架け橋になるよう微力ながらお手伝いをさせていただきました。

今後の方向性

会として様々な取り組みを行っていますが、まだ、地域には休憩所やトイレ、食事、買い物をする場所などの拠点や受け皿となるものが不足し、語り部の後継者育成など課題もたくさんあるのが現状です。でも地域住民とちからを合わせて、時には行政やいろんな活動組織と協働や連携をして、気長にこつこつと、先ず自分たちが楽しみながら、身丈にあった「いいまち」にしていきたいな、と思います。みなさん応援よろしくをお願いします。

「魚まち、いち押しの見どころ

エビ網漁の出港

これからの季節、紀伊長島では、エビ網を仕掛けるため、漁場を目指す勇壮な光景を見ることができます。

定刻、江の浦湾のあちこちから集まってきた漁船が、船団となって、紺碧の海に白波をたてながら全速力で進む様子は圧巻で、魚まちならではの光景です。アルファ橋の上からの眺めが最高ですが、橋の上には駐車スペースがなく、歩道は片側しかないので気をつけてご覧になっていただきたいものです。



記念碑山からの眺め

早春に美しい花を咲かせる紅梅で有名な「長楽寺」の山門脇から山道に進み、10分程登ると小公園があります。そのすぐ上には記念碑山と呼ばれる所以の「表忠碑」が立っています。記念碑山からは、町並みが一望でき、その向こうには沖の小島や半島が望めます。波のある日は、海の青さとのコントラストがきれいです。また、ここから長島港の入り口には白灯台、波間に漂う浮き灯台、小さな岬にある灯台と3つの灯台を見ることができます。そのままゆるやかな山道を西に下って行くと樹齢約800年のクスノキがそびえる長島神社にたどり着くことができます。



船だんじり

1月の中旬に（今年は13日）長島神社の例祭が行われます。魚まちにふさわしい威勢のいい祭りです。カツオの1本釣りを模した「船だんじり」は、長島港魚市場前から出発します。船に乗り込んだ漁師の子どもが、わらをつめて作ったカツオを勇ましい掛け声で釣る真似をし、また、船尾からは、エサのイワシに模した飴玉がばらまかれ、取り囲んだ見物客が我先に拾うため、辺りは興奮と熱気に包まれます。船が進むたび、待ち構えている群衆が加わり、目的地の長島神社につくまでは、すごい人数に膨れ上がります。だんじりが到着すると神社境内では、餅がまかれ、祭りがしめくくられます。

バス会社では、すでにこの祭りに合わせたツアーが計画されており、歩観会として、どのようにもてなし交流していけばよいか、会員のみなどと協議をすすめているところです。

他にも見どころとして、最近移転したばかりの「紀伊長島郷土資料館」や漁師町の風情が残る「合い（路地）」などがあげられますが、気軽に江の浦湾をぐるりと散歩するのが何よりのおすすめです。昔ながらの「いさば屋」で新鮮な魚貝類を見たり買ったり、堤防の外や昇降橋から停泊中の船をながめるだけでも充分です。また浜で出会った漁師のおじさんたちに声をかけて、長島弁でいろんな話を聞かせてもらえば、魚まちの魅力にもっと触れることができるでしょう。



古道魚まち歩観会 URL <http://www.smart-frog.com/pcuo/index.html>

伊勢路友の会状況報告

平成19年1月1日現在

個人会員 317名

法人会員 13名

発行元

熊野古道伊勢路友の会事務局 TEL 0597-23-3784

〒519-3695 尾鷲市坂場西町1-1 FAX 0597-23-3785

東紀州地域活性化事業推進協議会 E-mail naka@kassay.org